

大学生と小学生の協同による地域の魅力再発見事業 ～輪島市立町野小学校 6年生との活動～

団体名●直江フィールド／代表者名●直江学美（人間科学部こども学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

直江フィールドは昨年度に引き続き本事業に参画した。本年度の対象は、輪島市立町野小学校の5・6年生である。

本事業の背景は、石川県農林水産部の提案によると以下のとおりである。

- 震災により多くの住民が二次避難を余儀なくされ、地域外へ流出した結果、地域の過疎化が一層深刻化していること。
- 過疎化の進行に伴い、能登で受け継がれてきた多様な生業の継承が危ぶまれていること。

これらの課題を踏まえ、次の二点を目的とする。

- ①地域の生業を、地域内の小学生と地域外の大学生が共に学ぶことで、地域の魅力再認識につなげる
- ②震災の被害を受けながらも復興に向けて取り組む地域の担い手の活動を記録し、能登への応援を呼びかけるコンテンツとして県内外で活用すること。

直江フィールドでは、「地域に学び地域に貢献する」という立場から参画を決め、輪島市立町野小学校6年生、石川県農林水産部、一般社団法人くくむと協同して事業を実施した。直江フィールドからは3年生4名が参加した。

活動内容

本事業は3回の共同ワークを行うことが決められていた。

1回目：顔合わせとリサーチ

2回目：インタビュー

3回目：影絵ワーク

メンバー：町野小学校児童(5年生3名、6年生6名)
直江フィールド(学生4名)

当初は、事前に大学生側のみで事前調査を行う予定であった。しかし、ちょうど予定日に能登が豪雨に見舞われたため訪問を見合わせ、新聞記事やインターネットなどから町野町の情報を得ることとした。

10月31日(金)【1回目(顔合わせとリサーチ)】

活動場所：輪島市立町野小学校

活動内容：リサーチの共有、取材先候補の決定、取材に向けた準備(質問だしおよび役割分担)。

11月6日(木)【2回目(インタビュー)】

活動場所：もとやスーパー

活動内容：取材の実施。もとやスーパーで、本谷社長に歴史の話、これからの町野町の話などインタビューをおこなった。また、農業を営みながら、まちのラジオを続けている山下さんにも、児童と一緒にインタビューした。

11月17日(月)【3回目(影絵ワーク)】

活動場所：輪島市立町野小学校

活動内容：取材を基に、町野町の歴史や未来の姿を考え、影絵のストーリーを考えた。一部ではあるが、影絵を実際に作成した。



影絵作成の様子

成果、結果の考察

小学校教員を志望する学生にとって、能登の現状を自ら体験的に学ぶことは重要であり、本事業を通して能登の小学生と共に活動できたことは貴重な経験であった。また、将来教員になった際に必要な視点を得たと考えられる。

今後の課題、展望

学生一人ひとりが、引き続き能登の現状と向き合い、今後の能登について主体的に考える教員になってほしいと願う。